

# 國學院大學學術情報リポジトリ

出張報告「International Society for the Sociology  
of Religion 34th Conference  
国際宗教社会学会第34回学術大会」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/0002000525">https://doi.org/10.57529/0002000525</a>

## 出張報告

### International Society for the Sociology of Religion 34th Conference 国際宗教社会学会第34回学術大会

International Society for the Sociology of Religion (ISSR国際宗教社会学会)は、宗教社会学の分野で国際的に著名な学会である。

本学会の学術大会が、スイスのローザンヌ大学において“Religion, Cooperation and Conflict in Diverse Societies”というテーマを掲げて開催されることとなった。

平藤と客員教授である北海道大学の櫻井義秀教授は、共同でセッションReligious Research in Contemporary Asia-Pacific Regionsを申請し、認められた。このセッションでは、2017年度の兼任教授である井上順孝教授が、プロジェクトの成果公開となる研究発表を行った。タイトルはThe Specific and Common Aspects of Religious Culture Educationであった。



ローザンヌ大学キャンパス

セッションの会場からは、日本における宗教文化教育という試みについて大変意義のある、興味深いものであるという意見が述べられ、今後の情報の共有や継続したディスカッションの必要が認識された。

このほかのセッションでも宗教と教育に関する議論や、本研究事業でも取り組んでいる

宗教意識調査に関わる発表が数多く見られ、何人かの研究者、また研究機関と今後、研究上の協力関係を築いていくことを約束した。

全体を通して、本研究事業の蓄積してきたデータや資料は、国際学会でも広く共有されるべきものであり、情報発信が不十分であったことが痛感された。

学会会場のあるローザンヌへ行く途上ジュネーブに立ち寄った。宗教改革ゆかりの教会や公園、博物館などを見学する時間を持つことができた。また、ローザンヌではモスクを見学した。



Mosquee de Lausanne

国際都市の多様な宗教文化を実見することができ、大変良い機会となった。

(平藤喜久子)